

風土記の丘の花だより³¹⁷

今、そしてこれから見られる植物(2026年4月18日)

サクラの花で咲いているのは、花の大きな八重咲きのサトザクラと、山に霞がかかったように咲くカスミザクラだけになりました。でもこれをご覧になる頃にはそれも散って、フジの季節になっているのでしょうか。今回も4つ紹介することにしましょう。



白いスミレ、名前はアリアケスミレです。これは修復古墳で撮りましたが、「おや?こんなところにも」というような所でも見つかります。アリアケは九州の有明海のことです。このスミレの花の色には変異が多く、有明海の景色が変化に富むことから、そう名付けられたというのですが、和歌山県民にとってはちょっとイメージしにくいかもしれませんね。修復古墳は斜面なので、転ばないように観察してくださいね。スミレもそろそろ花期が終わりそうですね。



とても貴重でみんなで守る必要がある植物ジュウニヒトエです。植物自体はもちろん、環境も守っていく必要があります。おかげで、ここのところ株数が増えてきました。でも、多くの人そんな努力や気持ちを踏みにじるいちばん怖い行為が、心ない人による盗掘です。こんな素敵な花をみんなで楽しもうとせず、独り占めにして、何が楽しいのでしょうか。本来、ジュウニヒトエはごく薄い紫色ですが、写真の株は真っ白な花を付けていました。この山でいつまでも咲き続けてほしいものです。



園芸品種みたいな鮮やかな色の可愛い花ですね、ムラサキサギゴケという草です。田んぼのあぜ道などにはビッシリ生えて、今の時期は満開状態だろうと思います。でも、これは安藤塚で撮りました。毎年、安藤塚の東の端あたりでこの花が咲きます。土木作業のとき、田んぼから土でも運んできたのでしょうか?いきさつはよく分かりませんが、きれいな花ですね。園芸品種には白い花もあり、それこそサギゴケですね。コケの仲間ではなく、サギゴケ科の草です。



花には見えませんが、面白い形の花です。ヒメコウゾの花です。雌花は球体から細長い雌しべが何本も出ています。雌花の下には雄花が咲きます。雄花も丸く先が白い雄しべがたくさん出ています。雌花は実を結び、熟すと赤くなり、おいしそうに見えます。食べたことはありますが、口に入れる何となく粘って、まずくはないですが、おいしいものでもなかったです。(あくまでも個人の感想です)ヒメコウゾは紙の原料となるコウゾの元になった木です。

松下